

令和5年度年間学習計画（シラバス）

教科名 商 業 科目名

プログラミング

3年K選択

科 目 の 目 標	プログラミングに関する知識と技術を習得し、プログラムの役割や重要性について理解するとともに、ビジネスの諸活動においてコンピュータを合理的に活用する能力と態度を育てる。 身に付けさせたい資質・能力：思考力、自己肯定力、創造力		
履 修 年 次	3 年 次	単 位 数	2
授 業 の 方 法	一斉授業、個人学習、ジグソー法学習		
教 科 書 副 教 材	『最新プログラミング』（実教出版） 『Excel でまなぶプログラミング』（実教出版）		
学 習 に 必 要 な 物 品 ・ 費 用 等	なし		
学 習 の 目 標	(1) コンピュータを使ったデータ処理の仕組みについて理解する。 (2) プログラミングに関する知識と技術を身に付ける。 (3) 体験的学習を通して創造力や論理的な思考力を身に付ける。 (4) ビジネスの諸活動において、情報を合理的に処理しコンピュータを効果的に活用する能力と態度を身に付ける。		
学 習 の 内 容 と 主 な 学 習 活 動 ・ 言 語 活 動	(1) コンピュータとプログラミング コンピュータによる情報処理の形態と情報処理システムについて学ぶ。 (2) プログラミング基礎 Java のプログラムを作るために必要な知識を学ぶ。 (3) プログラミング応用 Java のプログラミング学習をさらに学ぶ。 (4) Java活用 Java 言語をより活用するための基礎的な知識や技術について学ぶ。 (5) ハードウェア・ソフトウェア コンピュータ利用において必要となるハードウェア・ソフトウェアの両面を学ぶ。		
学 習 の 留 意 点	(1) 座学と実習のある科目である。コンピュータの仕組みを理解し、論理的に考えることが重要である。 (2) 意欲的に実習に取り組み、失敗を恐れず挑戦する気持ちが重要である。 (3) 共に学ぶ仲間と協働し、主体的に取り組むこと。		
評 価 方 法	ア 【関心・意欲・態度】 プログラミングについて関心をもち、ビジネスの諸活動によって生じた情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともにプログラムを活用しデータを合理的に処理し、コンピュータを効果的に活用する実践的な態度を身に付けている。 イ 【思考・判断・表現】 ビジネスの諸活動によって生じた情報を主体的に活用することを目指して、プログラムを利用してデータを加工するための思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 ウ 【技能】 プログラミングに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動によって生じた情報の活用を目的としてコンピュータの活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 エ 【知識・理解】 コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、プログラムの意義や役割について理解している。 (1) 上記ア、イ、ウ、エを A・B・C で評価します。 (2) 小テスト、提出物、授業への取組（出席状況・意欲・態度等）に上記 A・B・C の平均を総合して各学期の評価とする。 (3) 年度末の評定は、各学期の成績を総合的に判断して、評価します。		

令和4年度 「プログラミング」年間学習計画

学 期	月 別	時 間	単 元	学 習 内 容	評 価 の 観 点（評価規準）	考 査 等
前 期	4	2	第 1 章 コンピュータとプロ グラミング	1 節ビジネスと情報処理システム	【関心・意欲・態度】情報処理システムについて関心を持ち、データ処理の仕組みや役割の重要性についての学習にすすんで取り組もうとしている。 【思考・判断・表現】情報活用の重要性について様々な角度から思考を深め、合理的な情報処理システムを適切に判断し、導き出した考えを表現している。 【技能】情報や処理システムの意義に関する資料を収集し、情報のもつ意味を読み取り、整理している。 【知識・理解】情報処理システムの意義や役割について、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	演習課題提出 考查
	5	1	第 2 章 プログラミング基礎	1 節プログラミングの手順	【関心・意欲・態度】Java 言語の特徴について自らすすんで調べようとしている。 【思考・判断・表現】プログラミング言語の重要性について自ら思考を深め、各技法について適切に判断し、表現している。 【技能】必要なハードウェア・ソフトウェアの操作を行うことができる。 【知識・理解】Java 言語の特徴について、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	
	3	2 節データの入出力と演算				
	3	3 節アルゴリズムの表現技法				
	3	4 節条件判定とくりかえし処理				
	3	5 節オブジェクト指向の考え方				
7	3	第 3 章	1 節メソッドの利用	【関心・意欲・態度】メソッドを利用する意義、配列の有用性について関心を持ち、利用方法について探究しようとしている。 【思考・判断・表現】適切なエラー処理などについて思考を深め、コンピュータを合理的に活用することについて適切に判断し、表現している。 【技能】コンピュータの活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【知識・理解】メソッドについて基礎的・基本的な知識を身に付け、その適切な利用法について理解している。	演習課題提出 考查	
8	5	プログラミング応用	2 節配列の利用			
9	2	3 節例外処理とストリーム				
5						
後 期	10	8	第 4 章 Java の活用	1 節ユーザインタフェース	【関心・意欲・態度】必要なユーザインタフェースの設計の手順について探究しようとしている。 【思考・判断・表現】使いやすい画面を作成するための技法について思考を深め、表現している。 【技能】ユーザインタフェースの設計の基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。 【知識・理解】ユーザインタフェースの設計の手順、処理についての技術を適切に理解し、活用している。	演習課題提出 考查
	11	4		2 節文字や画像などの処理		
	5					
	12	8				
	1	5	第 5 章	1 節ハードウェア	【関心・意欲・態度】ハードウェアとソフトウェアについての学習に自らすすんで取り組もうとしている。 【思考・判断・表現】情報活用能力の重要性について自ら思考を深め、適切に判断し、表現している。 【技能】様々な資料を収集し、適切に選択し、活用している。 【知識・理解】基礎的な知識を身に付け、その働きや仕組み・技術を身に付け、その役割や機能について適切に理解している。	演習課題提出 考查
	2	ハードウェア・ソフト ウェア	2 節ソフトウェア			
3						
計	60					

令和5年度年間学習計画（シラバス）

教科名 商 業

科目名

課題研究

3年課研選択

科 目 の 目 標	商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。 身に付けさせたい資質・能力：思考力、人間関係形成能力、創造力、発信力		
履 修 年 次	3 年 次	単 位 数	2
授 業 の 方 法	一斉授業、グループ学習、個人学習		
教 科 書 副 教 材	なし		
学 習 に 必 要 な 物 品 ・ 費 用 等	特になし		
学 習 の 目 標	商業に関する基礎的・基本的な学習の上に立って、商業に関する課題を自ら設定し、主体的にその課題を探究し、課題の解決を図る学習を通して、商業に関する専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、自ら課題を発見して解決する能力や生涯にわたって自発的、創造的に学習に取り組む態度を育てる。		
学 習 の 内 容 と 主 な 学 習 活 動 ・ 言 語 活 動	(1) 調査、実験、研究 (2) 作品製作 (3) 産業現場等における実習 (4) 職業資格の取得 個人又はグループで適切な課題を設定し、報告書を作成し、成果について発表する。		
学 習 の 留 意 点	(1) 共に学ぶ仲間と協働し主体的に取り組むこと。 (2) 組織に貢献する意識を持つこと。		
評 価 方 法	ア 【関心・意欲・態度】 商業に関する課題について関心をもち、主体的にその課題を探究する態度を身に付けている。 イ 【思考・判断・表現】 自ら課題を発見し、解決することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 ウ 【技能】 商業に関する専門的な知識と技術を深化させ、その技術を適切に活用している。 エ 【知識・理解】 商業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その活用方法について理解している。 (1) 上記ア、イ、ウ、エをA・B・Cで評価します。 (2) 授業への取組(出席状況・意欲・態度等)に上記A・B・Cの平均を総合して各学期の評価とする。 (3) 年度末の評定は、各学期の成績を総合的に判断して、評価します。		

令和４年度「課題研究」年間学習計画

学 期	月 別	時 間	単元	学習内容	評価の観点（評価規準）	考查等
前 期	4	5	前期課題研究	課題の設定 調査・研究・制作 報告書作成 発表資料作成	「関心・意欲・態度」 商業に関する課題について関心をもち、主体的にその課題を探究する態度を身に付けている。 「思考・判断・表現」 自ら課題を発見し、解決することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 「技能」 商業に関する専門的な知識と技術を深化させ、その技術を適切に活用している。 「知識・理解」 商業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その活用方法について理解している。	行動観察 作業日誌提出 報告書提出 発表
	5	10				
	6	10				
	7	10				
	8					
	9					
後 期	10	5	後期課題研究	課題の設定 調査・研究・制作 報告書作成 発表資料作成	「関心・意欲・態度」 商業に関する課題について関心をもち、主体的にその課題を探究する態度を身に付けている。 「思考・判断・表現」 自ら課題を発見し、解決することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 「技能」 商業に関する専門的な知識と技術を深化させ、その技術を適切に活用している。 「知識・理解」 商業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その活用方法について理解している。	行動観察 作業日誌提出 報告書提出 発表
	11	10				
	12	10				
	1	10				
	2					
	3					
計		70				

令和5年度 北海道美唄尚栄高等学校シラバス

教科	情報科	科目(選択群)	情報Ⅰ（１年共通）	単位数	2単位
科目の目標		(1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。			
特に身に付けたい力（尚栄GP）		自己肯定力、人間関係形成能力、発信力			
教科書・副教材		「図説情報Ⅰ」（実教出版） 「図説情報Ⅰ学習ノート」（実教出版） 「令和4年度版 全商ビジネス文書実務検定 模擬試験問題集 3級」（実教出版）			
学習上の留意点		(1) 自らを肯定し、自信をもつことで能動的に自分の意見を発信すること。 (2) 人の発言をしっかりと聞き、授業規律を守って取り組むこと。 (3) 授業に対する意欲・関心を持ち、積極的に発言したり、グループワークに能動的に参加したりすること。			

評価の観点、観点別学習状況の評価基準

評価の観点 評価基準	【知識・技能】 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質およびそのような社会と人間との関わりについて理解している。	【思考・判断・表現】 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	【主体的に学習に取り組む態度】 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
A 十分満足できる	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識や技能がしっかり身についている。	事象を情報とその結び付きの視点から捉えることができる。問題の発見・解決に向けて情報技術を適切に用いている。	主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善することができる。
B おおむね満足できる	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識や技能がおおむね身についている。	事象を情報とその結び付きの視点から捉えることがおおむねできる。問題の発見・解決に向けて情報技術を適切におおむね用いている。	主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善することがおおむねできる。
C 努力を要する	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識や技能が十分に身についていない。	事象を情報とその結び付きの視点から捉えることに努力を要する。問題の発見・解決に向けて情報技術を適切に用いるのに努力を要する。	主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善することに努力を要する。
評価方法	単元テスト、学習課題、授業での発言内容など。	単元テスト、学習課題、授業での取り組み状況など。	授業での取り組み状況など

令和5年度 「情報Ⅰ」 年間学習計画

学 期	時 間	単元・学習内容	評価の観点（評価規準）	I C T活用の場面
前 期	1	○オリエンテーション 中学校までの経験調査。	【知識・技能】効果的なコミュニケーションの実現。コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 【思考・判断・表現】様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と 情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	前時の振り返り
	3	○今までの情報技術とこれからの情報技術 情報社会の現状を理解する。		学習の記録
	3	○問題解決 問題解決の手法を理解する。		既習事項の定着度合いを確認する小テスト
	4	○情報社会における法規と制度的財産権について理解する。		文章の読解を深めるための情報収集
	3	○情報セキュリティと個人が行う対策 セキュリティ対策について理解する。		
	2	○メディア メディアの機能と特性を理解する。		スピーチ動画の撮影、動画を用いた相互評価
	2	○コミュニケーション コミュニケーションの意味を理解する。		プレゼンテーションの作成、発表、相互評価
	2	○情報デザインと表現の工夫 情報デザインを理解する。		
	5	○コンテンツの制作 プレゼンテーションにおけるコンテンツの作成について理解する。		
後 期	3	○情報の表し方 アナログとデジタルを理解する。	【知識・技能】効果的なコミュニケーションの実現。コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 【思考・判断・表現】様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と 情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	前時の振り返り
	7	○コンピュータでのデジタル表現 数値・文字・音・画像・動画に関する表現を理解する。		学習の記録
	2	○情報機器とコンピュータ 身の回りの情報機器の事例を理解する。		既習事項の定着度合いを確認する小テスト
	3	○アルゴリズムと基本構造 流れ図について理解する。		文章の読解を深めるための情報収集
	4	○プログラムの基礎 プログラム作成方法を理解する。		
	4	○プログラムの応用 配列や関数を理解する。		話し合いのために必要な情報の収集
	2	○モデル化 モデル化の手順や分類を理解する。		
	4	○シミュレーション シミュレーションの手順と注意点を理解する。		
	4	○データの活用 データ分析の方法を理解する。		
	4	○ネットワークの仕組み ネットワークの構成を理解する。		
	5	○情報システムとサービス 身の回りの情報システムの概要を学ぶ。		
	3	○情報セキュリティ 情報セキュリティ対策について理解する。		
計	70			

令和5年度 北海道美唄尚栄高等学校シラバス

教科	商業科	科目(選択群)	ビジネス基礎(2年選択D)	単位数	2単位
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力と次のとおり育成することを目指す。 (1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 身に付けさせたい資質・能力：思考力、自己肯定力、人間関係形成能力				
特に身に付けたい力(尚栄GP)	自己肯定力、人間関係形成能力、発信力				
教科書・副教材	ビジネス基礎(実教出版) ビジネス基礎 準拠問題集(実教出版)				
学習上の留意点	(1) ビジネスに関する関心を持ち、意欲的に取り組むこと。 (2) 分からないことは自分で調べ、他者へ説明できるレベルを目指すこと。 (3) 共に学ぶ仲間と協働し、主体的に取り組むこと。				

評価の観点、観点別学習状況の評価基準

評価の観点 評価基準	【知識・技能】 ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。	【思考・判断・表現】 ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	【主体的に学習に取り組む態度】 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。
A 十分満足できる	ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識や技能がしっかり身についている。	様々な知識、技術の活用を行い、根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについてしっかり考えている。	自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わることができる。
B おおむね満足できる	ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識や技能がおおむね身についている。	様々な知識、技術の活用を行い、根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについておおむね考えている。	自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わることもおおむねできる。
C 努力を要する	ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識や技能を身につけることに努力を要する。	様々な知識、技術の活用を行い、根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて努力を要する。	自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わることに努力を要する。
評価方法	単元テスト、学習プリント。	単元テスト、学習課題、作成物など。	授業での取り組み状況など

令和5年度 「ビジネス基礎」年間学習計画

学 期	時 間	単元・学習内容	評価の観点（評価規準）	I C T活用の場面
前 期	1	○オリエンテーション 中学校までの経験調査を行う。	【知識・技能】ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決ことについて考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。	前時の振り返り
	4	○商業の学習とビジネス 1. いざビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス ビジネスの概要を理解する。		学習の記録
	8	○ビジネスとコミュニケーション 1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー 3. 情報の入手と活用 ビジネスにおける信頼関係構築の意義と重要性を理解する。		既習事項の定着度合いを確認する小テスト 文章の読解を深めるための情報収集
	6	○経済と流通の基礎 1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通 経済の仕組みと流通の必要性を理解する。		相互評価
	12	○さまざまなビジネス 1. ビジネスの種類 2. 小売業 3. 卸売業 4. 金融業 5. 情報通信業 流通や流通に関わる様々なビジネスについて理解する。		プレゼンテーションの作成、発表、相互評価
後 期	10	○企業活動の基礎 1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 3. 資金調達 4. 財務諸表の役割 5. 企業活動と税 6. 雇用 企業活動の形態と組織、マーケティングの重要性と流れについて理解する。		
	10	○ビジネスと売買取引 1. 売買取引の手順 2. 代金決済 取引に関する知識や技術を理解する。		
	12	○ビジネス計算 1. ビジネス計算の基礎 2. ビジネス計算の応用 ビジネス計算に関する知識や技術を理解する。		
	7	○身近な地域のビジネス 1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向 さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について理解する。		
	計	70		

令和5年度 北海道美唄尚栄高等学校シラバス

教科	商業科	科目(選択群)	簿記(2・3年選択F z 1・2)	単位数	4単位
科目の目標	(1) 企業がどのようなモノやコトにお金を使いどのように利益を得ているのかを理解する。 (2) 企業が行う取引を会社法及び企業会計原則に従い、適切な勘定科目を用いてその金額を記録する技能を身に付ける。 (3) 取引に応じて記録で使用する帳簿を判断し、表すことができる。 (4) 様々な企業の決算情報から、その企業の経営活動を合理的に推測できる。				
特に身に付けたい力(尚栄GP)	自己肯定力、人間関係形成能力、発信力				
教科書・副教材	「簿記」(TAC出版) 「全商簿記3級 論点別ステップアップ問題集」(TAC出版)				
学習上の留意点	(1) 簿記に関する関心を持ち、意欲的に取り組むこと。 (2) 検定取得に向けたレベルを目指すこと。 (3) 共に学ぶ仲間と協働し、主体的に取り組むこと。				

評価の観点、観点別学習状況の評価基準

評価の観点 評価基準	【知識・技能】 簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その仕組みについて学習するとともに、適正な会計処理を行う技術を身につけている。	【思考・判断・表現】 適正な会計処理を行うことを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わるものとして、適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	【主体的に学習に取り組む態度】 簿記について関心を持ち、適正な会計処理を行うことをめざして主体的に取り組む態度をもち、会計処理を行う実践的な態度を身につけている。
A 十分満足できる	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、適正な会計処理を行うことができる。	基礎的・基本的な知識と技術をもとに、適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	簿記について関心を持ち、会計処理を行う実践的な態度を身につけている。
B おおむね満足できる	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、適正な会計処理を行うことがおおむねできる。	基礎的・基本的な知識と技術をもとに、適切に判断し、表現する創造的な能力をおおむね身につけている。	簿記について関心を持ち、会計処理を行う実践的な態度をおおむね身につけている。
C 努力を要する	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、適正な会計処理を行うことに努力を要する。	基礎的・基本的な知識と技術をもとに、適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけることに努力を要する。	簿記について関心を持ち、会計処理を行う実践的な態度を身につけることに努力を要する。
評価方法	単元テスト、学習プリント。	単元テスト、学習課題、作成物など。	授業での取り組み状況など

令和5年度 「簿記」年間学習計画

学期	時間	単元・学習内容	評価の観点（評価規準）	I C T活用の場面
前期	6	○簿記の基礎	【知識・技能】 簿記の仕組みに関心を持つとともに簿記のよさを認識し、簿記に関連する技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 簿記の仕組みにおいて、取引を考察し表現したり思考の過程を振り返り多面的・多角的に考えたりすることなどを通じて、商業的見方や考え方を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 簿記の仕組みにおいて、取引を処理する仕方や方法などを協同的に取り組もうとしている。	前時の振り返り
	4	○資産・負債・純資産と貸借対照表		学習の記録
	4	○収益・費用と損益計算書		
	4	○取引と勘定		
	4	○仕訳と転記		既習事項の定着度合いを確認する小テスト
	4	○仕訳帳と総勘定元帳		
	3	○試算表の作成		文章の読解を深めるための情報収集
	4	○精算表		
	4	○決算		相互評価
	3	○会計帳簿		プレゼンテーションの作成、発表、相互評価
後期	3	○現金と預金の取引		
	5	○商品売買の取引		
	3	○掛け取引		
	4	○手形		
	4	○有価証券		
	8	○その他の債権・債務		
	8	○固定資産の取引		
	4	○販売費及び一般管理費		
	4	○資本の取引と事業主個人の税金		
	4	○個人企業の税金		
	7	○決算整理（その1）		
	12	○8桁精算表		
	4	○帳簿決算		
	3	伝票式会計と会計ソフトウェア		
	4	決算整理（その2）		
	4	精算表と財務諸表の作成		
	4	クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務		
	4	特殊な手形の取引		
	3	本支店会計一本支店間の取引		
	3	本支店会計一合併財務諸表		
	3	株式会社の会計処理		
	2	株式会社の税金		
計	140			

令和5年度 北海道美唄尚栄高等学校シラバス

教科	商業科	科目(選択群)	情報処理(2・3年選択F z 3)	単位数	2単位
科目の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力と次のとおり育成することを目指す。 (1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
特に身に付けたい力(尚栄GP)		自己肯定力、人間関係形成能力、発信力			
教科書・副教材		「情報処理 Prologue of Computer」(実教出版) 「令和4年度版 全商情報処理検定模擬試験問題集 3級」(実教出版)			
学習上の留意点		(1) 座学と実習のある科目である。座学は基本用語と考え方を学ぶ。インターネット等で調べることで知識の深化を図る。 (2) 共に学ぶ仲間と協働し、主体的に取り組むこと。 (3) 全商情報処理検定3級取得を目指す。			

評価の観点、観点別学習状況の評価基準

評価の観点	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
評価基準	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
A 十分満足できる	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
B おおむね満足できる	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術をおおむね身に付けている。	ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとおおむねしている。	自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとおおむねしている。
C 努力を要する	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるのに努力を要する。	ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することに努力を要する。	自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組むことに努力を要する。
評価方法	単元テスト、学習プリント。	単元テスト、学習課題、作成物など。	授業での取り組み状況など

令和5年度 「情報処理」年間学習計画

学 期	時 間	単元・学習内容	評価の観点（評価規準）	I C T活用の場面
前 期		第4章 ビジネス文書の作成	【知識・技能】情報処理を実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、関連する基礎的な知識と技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】様々な知識、技術を活用し、情報を扱うことに関する課題を発見するとともに、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	前時の振り返り
	2	1 節 ビジネス文書と表現		学習の記録
	3	2 節 基本文書の作成		
	4	3 節 応用文書の作成		既習事項の定着度合いを確認する小テスト
		第1章 情報の活用と情報モラル		
	2	1 節 情報処理の重要性		文章の読解を深めるための情報収集
	2	2 節 情報モラルと法規		
	3	3 節 コミュニケーションと情報デザイン		相互評価
	1	前期中間考査		プレゼンテーションの作成、発表、相互評価
		第2章 コンピュータと情報通信ネットワーク		
	4	1 節 コンピュータシステムの概要		
	3	2 節 情報通信ネットワークのしくみと構成		
	3	3 節 インターネットの活用		
	3	4 節 情報セキュリティの確保		
後 期		第3章 情報の収集と分析		
	2	1 節 ビジネスと統計		
	4	2 節 関数を利用した表の作成		
	3	3 節 グラフの作成		
	3	4 節 情報の整列・検索・抽出		
	3	5 節 問題の発見と解決の方法		
	1	前期期末考査		
	10	問題演習 情報処理検定3級問題演習		
	1	後期中間考査		
		第5章 プレゼンテーション		
	5	1 節 プレゼンテーションの技法		
	8	2 節 ビジネスにおけるプレゼンテーション		
計	70			